

平成28年4月28日

プロジェクト報告書

団体名 特定非営利活動法人こだいらソーラー

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

市民に対する省エネ・創エネの啓発活動(体験に裏打ちされた具体的なノウハウの)

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

※応募申請書に記載のもので可。

プロジェクトをとりまく社会的な背景としては、近年、異常気象が日本各地で発生し、地球温暖化が進む中、低炭素社会実現が急がれます。二酸化炭素排出抑制には、市民レベルの努力が必要ですが、行動するための具体的な情報が市民に届いていない現状があります。プロジェクトの対象としては、地域で生活する市民一人一人の個人のライフスタイルが対象です。人間のニーズに着目するのではなく、人間が出すごみ(CO2を含む)を処理する地球環境の処理能力が限界に達しており、地球環境の負荷をできるだけ減らすニーズが社会に生じています。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のもので可。

「市民に対する省エネ・創エネの啓発活動」として、自立型太陽光発電装置の組み立て体験や専門家を交えたセミナー、太陽光発電施設の見学会、パンフレット配布などを行います。自立型太陽光発電装置の組み立て体験は、都市部におけるエネルギー消費に対する意識の変革と同時に、停電時の非常用電源として、災害時の共助意識も高めていきます。

自立型太陽光発電装置の組立セミナー(8月)、電力自由化シンポジウム(12月)、太陽光発電施設見学会(3月)の開催は、地産地消のエネルギーを創る喜び、使う喜びを参加者が実感する機会としました。さらに啓発パンフレットの改訂、配布により、市民力で、再エネで暮らす未来を拓こうと呼びかけていきます。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

市民の環境意識が十分根付いていないことを前提に、知識だけでなく、実体験(工作や見学)を通して地球環境に負荷をかけない自然と共生するライフスタイルの選択肢を例示できるように工夫しました。また、2016年4月から始まった「電力自由化」は、個人のライフスタイルの幅を広げる社会の仕組みとしての選択肢として、制度設計に係わった方を講師に招き、3ヶ月前からその内容について、皆の理解を深められるよう工夫しました。

自立型太陽光発電装置は、各個人が家庭に持ち帰り、日常生活で実践しています。また、現在追跡調査を行い、その後のライフスタイルの実践や新たな改善点を調査し、今後のセミナーに役立てる参考としています。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

体験に裏打ちされた市民に対する省エネ・創エネの啓発活動としては、人数の制約はあるものの、その効果は、その場だけでない持続的な効果を発揮できたと考えます。また、セミナーを終えても、体験や形になった物が残り、参加者の意識付けは、深いものがあつたと考えます。更に、その後の追跡調査(アンケート)を通じて、セミナーだけで関係が終わるのではなく、その後も継続的にコミュニケーションが取れるのは、我々の啓発活動のネットワークの広がりによって役立っています。今後の課題としては、人数の制約をいかに解決するかです。従って、他の団体等の参考になれるようなある種のスタンダードを作り上げ、横への広がりを図りたいと思います。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

【太陽光パネル工作セミナー】





最終的には、太陽光パネル以外は、左のような一つのボックスに収納できます。